

ぱーとなー

2004年10月
第35号

耳原総合病院の理念

耳原総合病院はこんな医療をめざしています

○ 安全・安心・信頼の医療

私たちは患者様とともに力を合わせて医療をすすめます

○ 無差別平等の医療

私たちは人権を尊重した医療をすすめます

○ 患者負担の少ない医療

私たちは室料差額はいたしません

○ 地域とともに歩む専門職の育成

人権感覚をもつ専門職を養成します

当院の肝臓の治療方針をご説明します！

肝臓患者数は2015年をピークとする増加が続くと予測されています。原発性肝臓の約90%を占める肝細胞癌は、わが国では殆どがB型・C型肝炎を背景とした慢性肝炎・肝硬変を母体として発生し、その症例数は年々増加しています。当院では、根治性の追求と適応の拡大を目指して「外科・内科・放射線科」の協力の下に肝動脈塞栓療法、エタノール注入療法、熱凝固療法など病態に合わせた治療を行っています。

当院における肝臓の治療の実際

当院では肝臓に対しては肝切除をはじめ経皮的穿刺治療（エタノール注入療法、熱凝固療法）、血管内治療（肝動脈塞栓療法、肝動注化学療法）などの集学的治療を進め、根治性を高めると同時に患者さまの治療後の生活の質を確保することにも考慮した治療を目指しています。

どのような治療を選択するかは癌の進行度、癌の占拠部位、患者様の全身状態および患者さまの御希望をもとに決定しています。

以下、当院での肝臓の治療を具体的に御示します。

肝切除（手術治療）

全身麻酔下にて、肝臓が存在する肝臓の一部分を摘出する方法です。一般には肝臓の治療においては最も根治性が高いと考えられています。

ただ根治性が高い分、体の負担（特に肝臓）は大きく肝臓の患者さまの全員が手術を選択できるわけではありません。とくに肝臓の患者さまの殆どがB型・C型肝炎を背景とした慢性肝炎・肝硬変を合併しており肝切除を行おうとする肝臓の予備能力がないことが最大の原因であります。

当院では基本的に2cm以上の肝臓で多発肝内転移が明らかでなく、肝臓の予備能が肝切除に耐えうると判断した方には手術による病巣切除も治療法の選択肢として提案させていただいております。

平均入院期間は術後約3週間が平均です。職場復帰には退院後さらに1ヶ月近く自宅安静が必要となることが多いです。

当院においては過去5年間約50名の患者さまが肝切除術を受けられました（転移性肝臓を含む）。全員無事退院されております。

TAE（肝動脈塞栓療法）

肝細胞がんが栄養を供給している動脈にカテーテルという細い管を挿入し、造影剤を入れて、肝臓の血管を確認します。治療が必要な場合は、がんに行く血管に抗がん剤を入れます。ゼラチンスポンジを使って血管を詰めてがんが血液がいかないようにする治療です。

通常入院期間は5日から7日程度必要で治療後、数日間は発熱、食欲不振等の症状が出現します。ほとんどの患者さまは退院後5日から7日間程の自宅安静で職場復帰できるようになります。

肝臓の治療においては最も用いられる頻度が高く、当院では過去5年間約340例の患者さまがこの治療をうけられております。

PEIT（エタノール注入療法）

超音波装置で、肝臓の腫瘍を見ながら、針をさし、針を通してエタノールを注入する方法です。エタノールによって肝細胞がんは、固まって死んでしまいます。

リザーバー留置による抗がん剤動注化学療法

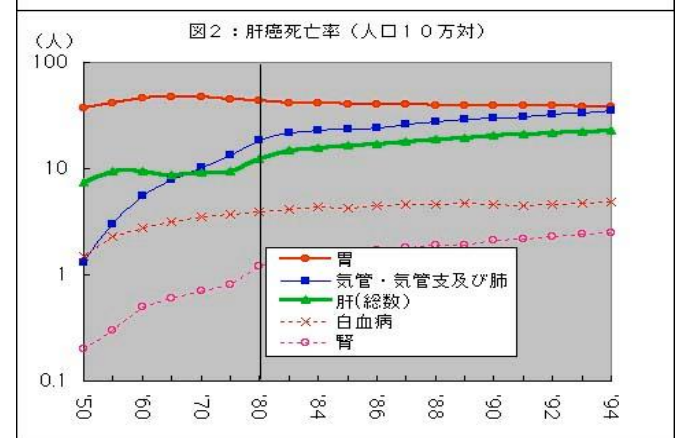
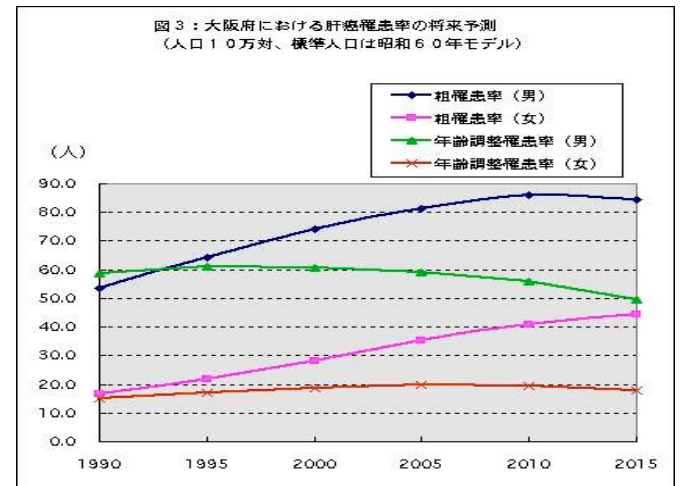
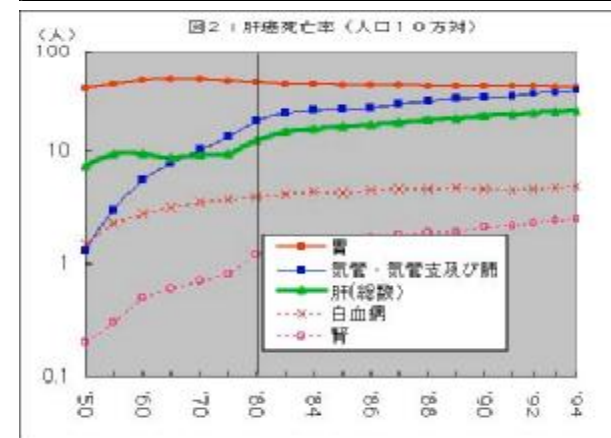
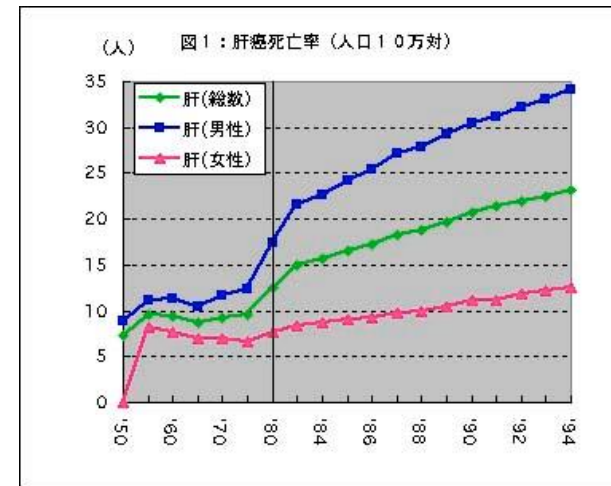
がんに行く血管にカテーテルという管を入れて留置する方法です。局所麻酔下にて右足の付け根の動脈より挿入することが多いです。カテーテルが入ると目的の血管に抗がん剤注入が簡単にできるようになり、外来通院で行うことも可能になります。大腸癌をはじめとした消化器癌からの肝臓の転移病巣の治療に用いることが多く、原発性肝臓の場合上記の治療にくらべると効果が乏しい場合が多く、治療の第一選択となりえることは少ないです。

以上が現在当院にて行っている肝臓の治療法です。

肝臓の治療は治療後の再発に対する戦略が非常に大きなウエイトを占めます。初回治療を行ったあとが本当の病気との付き合いになるといっても過言ではありません。

肝臓の治療後は再発を定期的にチェックする必要があるため、少なくとも1ヶ月に1回の血液検査、3-4ヶ月おきのCT、エコー、MRI等の画像検査が必要です。

地域医療室が窓口になりますので、お気軽にご相談ください。



厚生省、人口動態統計 94年版

耳原総合病院地域医療室

電話 072-241-0324

Fax ①072-241-0208

Fax ②072-241-0670

☆☆☆お電話で患者さまのご都合に合わせて予約いただけます。

折り返しFAXにて予約票をお送りします。☆☆☆

☆☆☆事前にカルテを準備してお待ちします。

カルテ作成に必要な情報をFAXして下さい。☆☆☆

☆☆☆予約当日、患者さまが受診の際

① 保険証②診療情報提供書③上記予約票をご持参下さい。☆☆☆